

第一部 記 述

管内學事ノ狀況

昭和十四年度ニ於ケル管内學事ノ施設ハ時恰モ支那事變第三年ヲ迎ヘ東亞新秩序建設ノ國策ノ遂行ト國民精神總動員ノ趣旨ニ從ヒ事變下ニ於ケル各種教育施設ニ對シ銳意ノ徹底ニ努力スルト共ニ縣下ノ實情ヲ察シ前年度ノ施設ヲ承繼シテソノ改善ト發達ニ努メタリ。殊ニ前年度ヨリ各種ノ學校共ニ集團勤勞ノ實施ヲナサシメ精神的訓練ヲ行フト共ニ勞力奉仕特ニ應召家庭ノ勞力援助ヲナサシメテ良好ナル成績ヲ納メタリ。今其ノ概要ヲ擧グレバ次ノ如シ。

小學校教育ニ在リテハ前年ニ引續キ義務教育ノ普及ト其ノ内容ノ改善充實トニ努ムルノ外高等小學校ノ教育ノ改善ト其ノ就學ノ獎勵トニ力ヲ致シ種々施設スル所アリ、就學ノ普及ニ關シテハ學齡兒童就學獎勵規程ヲ一層勵行活用シ近時農山漁村及中小商工業者ノ不況甚キ折柄貧困兒童就學保護獎勵施設ノ普及徹底ヲ促スト共ニ市町村長及小學校長等ヲ督勵シテ其ノ地方ノ情況ニ適切ナル方法ヲ講セシメ特ニ缺席兒童ニ對シテハ家庭ノ事情ヲ詳細ニ調査セシメ或ハ出席ヲ獎勵シ或ハ督促ノ手續ヲ勵行シ目的ノ達成ニ努力セリ。尙昭和七年七月文部省訓令第十八號ヲ以テ學校給食臨時施設方法ヲ定メラレ之ガ實施ニ依リ就學出席ノ向上ヲ計リ兼テ保健養護ノ實ヲ擧グルコトニ努メタリ。

東亞新秩序建設ノ國策ト國民精神總動員ノ趣旨ニ從ヒ事變下ニ於ケル教育上時局ニ對シ正シキ認識ヲ有スル様指導スルト共ニ一層國體觀念ヲ明瞭ニシテ國民精神ヲ作興シ作業的訓練ヲ重視シ集團勤勞ヲ實施シ協同階和堅忍持久勤儉力行ノ精神涵養ニ努メ体力ノ増進ヲ圖リ剛健ナル精神ヲ養成セムガ爲體育及運動遊技ヲ獎勵シ其ノ合理化ヲ計ルト共ニ學校衛生ニ留意シテ選手制度ノ幣ニ陥ルコトナキ様注意シ體育衛生ノ一元化ヲ圖リ集團勤勞ノ實施體育的施設等ヲナサシメ更ニ夏季休業等入長期ニ亙ル休業ニ於テハ全期間ヲ心身鍛煉ニ充テテ之ヲ實施セシム。設備ノ改善ニ關シテハ事變下ニアル故出來得ル限り節約シ市町村ノ財政經濟ノ實情ニ鑑ミ校舍ノ増改築又ハ備品ノ購入ヲ考慮シ專ラ在來ノ設備ノ整理活用ニ意ヲ用ヒシメ其ノ他實驗實習力ヲ致シ常ニ教材ノ具體化、實察化ヲ計ルコトニ努力シツツアリ。而シテ之ガ監督指導ニ關シテハ學校長ノ召集又ハ視學官、視學等ノ視察ニヨル場合ノ外特ニ必要ト認ムル教科目ヲ選定シ師範學校其ノ他中等學校ノ教員中ニ就キ各其ノ専門トスル學科ニヨリ適任者ヲ選定シテ縣ノ視學委員トナシ各郡市ニ於テ特定ノ學校ニ就キ其ノ施設ノ狀況及教授ノ實際ヲ視察シ當該學校ヲ中心トシテ郡市内各學校ヨリ參集スル主任教員ヲ指導シ又別ニ教育調査ト稱シ部長、視學官、社會教育主事、視學、屬等各調査事項ヲ定メ特ニ選定セシ學校ニ就キテ學校經營ノ計畫ト社會教育ノ實際狀況、兒童ノ學力並ニ指導教育費ト其ノ活用狀況諸表簿及教育事務ノ處理等ノ調査指導ヲナスノ外講習會出席、學事視察等ヲ獎勵シテ教員ノ研究修養ニ努メタリ。

中等教育ニ在リテハ我國現時ノ思想界ノ實情ニ顧ミ、專ラ訓育ニ重キヲ置キテ國民の信念ノ涵養ニ努メ以テ各學校共善良ナル校風ノ確立ニ努力セシメ内容改善ノ施設トシテ國語、漢文、農業、音樂、体操、物理、化學等ノ教授研究會ヲ開キ教材研究ト教授方法ノ改善刷新ヲ圖リ各種作業ヲ重ズルノミナラズ特ニ師範學校ニ於テハ郷土研究ノ目的ヲ以テ施設セラレタル郷土資料ノ蒐集及調査ニ努メ一層内容ノ充實ヲ圖リツツアリ。

從來ノ實業補習學校ト青年訓練所ヲ統合シテ青年學校トナリテヨリ已ニ四年其ノ實績着々トシテ向上シツツアリ。

之ノ時ニ際シ多年要望セラレシ青年學校教育ノ義務制ハ昭和十四年四月二十六日勅令ヲ以テ青年學校令改正公布ニヨリ實施セラレタルハ斯教育ノ爲慶賀ニ堪ヘザル處ナリ。

本縣ニ於テモ之ニ對應シ縣令訓令ヲ公布スルト共ニ市町村並ニ學校兩當事者ヲ召集シ講習會ヲ開催シ之ガ趣旨ノ徹底ヲ期セリ。義務制實施ノ實ヲ擧ガル爲特ニ青年教育官(社會教育課長)ヲ設置セラレタル外從來ノ社會教育主事二名、同主事補二名ノ上ニ新ニ指導職員トシテ主事補二名ヲ増員シ斯教育指導監督ノ徹底ヲ期シタリ。

現在青年學校數ハ公立百八十七私立九計百九十六校アリ。青年學校ノ指導ニハ青年教育官、社會教育主事、同主事補並文部省任命ノ青年學校視學委員鳥取縣擔當者十二名之ニ當ルノ外、青年學校教員ノ講習會、修練會等ヲ行ヒ當事者ノ再教育ニヨリソノ活動ヲ促進セリ。

青年學校振興ノ爲縣及郡市ヲ區域トシテ設置セラレタル青年學校研究會ハ愈々其ノ基礎モ確立シ漸次活動ノ範圍ヲ擴大シ側面ヨリ斯教育進展ニ努メツツアリ。

青年學校以外ノ男女青少年教育、成人教育、民衆娯樂改善其他社會教育ノ全般ニ就テハ社會教育主事及同主事補之ニ當リ各市町村ニ於ケル社會教育ノ發達ヲ圖ラシムル爲、前ニ設置セラレタル社會教育委員ヲ督勵シテ之ガ活動ヲ促シ別ニ中等學校長、神職、僧侶、特志家等ノ中ヨリ囑託セル三十名ノ社會教育講師亦事務局下ノ先達トシテ活躍ス。

更ニ舉國一致興亞ノ聖業達成ノ爲地方ニ實踐網ノ必要ヲ痛感シ、縣地方課、時局課、規畫課、社會教育課相連絡シ縣下全市町村ニ市町村常會、部落ニ部落常會ヲ定例日時ニ開催セシメ、縣ヨリ月々指導ニ出張シ之ガ普及徹底ヲ期シツツアリ。

學 齡 兒 童

就學ニ關スル規則施行ノ狀況

學齡兒童就學ノ普及ヲ圖リ其ノ出席ヲ督勵シテ義務教育ノ徹底上遺漏ナカラシムル爲市町村長及學校長ヲ激勵シテ規則ノ勵行ニ力メ學齡簿、學籍簿、兒童出席簿等ノ取扱ノ確實ト就學出席ノ督勵ニ關スル處務ノ敏活トヲ期スル等就學ニ關スル規則ノ施行ニ力ヲタリ。

就學獎勵ニ關スル施設事項

學齡兒童就學獎勵規程ノ徹底ニ努メ市町村ニ右保護施設ノ實行ヲ獎勵スルト共ニ學校長、教員等ヲシテ學齡兒童ノ家庭訪問其ノ他ノ施設ニヨリ保護者ノ啓發ニ力メシムル所アリ其ノ成績漸次良好ノ域ニ進ミツツアルヲ見ル。

小學校令第三十六條第一項但書ニヨリ市町村長ノ認可ヲ受ケ家庭其ノ他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル者ノ狀況。

本年度ニ於テハ管内之ニ該當スルモノナシ。

就學猶豫又ハ免除ニ關スル事由

學齡兒童中小學校令第三十三條ニヨリ就學義務ヲ猶豫又ハ免除シタル者ノ事由別人員ハ次ノ如シ

性 別	免 除			猶 豫				計
	白 痴	不具癡疾	貧 窮	病 弱	發育不全	感 化 院 收 容	一ケ年未滿所在不明者	
男	12	40	—	44	90	—	—	186
女	16	38	1	33	71	—	—	159
計	28	78	1	77	162	—	—	346

小 學 校

小學校ノ設置廢合及設備ノ狀況

本年度ニ於テハ小學校ノ設置廢合ニ係ル事實ナシ。

其ノ累年比較ニ示セバ次表ノ如シ

種 別	昭和十年度		昭和十一年度		昭和十二年度		昭和十三年度		昭和十四年度	
	本 校	分教場	本 校	分教場	本 校	分教場	本 校	分教場	本 校	分教場
尋 常 小 學 校	35	4	33	5	33	5	33	5	33	5
尋 常 高 等 小 學 校	178	55	177	55	177	55	177	55	177	55
高 等 小 學 校	3	—	3	—	3	—	3	—	3	—
計	216	59	213	60	213	60	213	60	213	60

時代ノ進展ト國運ノ伸張ニ伴ヒ且ツ逐年學齡兒童ノ自然増加ニヨリ校地校舍等著シク狹隘ヲ告グルニ至リタル結果校舍屋内体操場ノ増築特別教室ノ設備等漸次完成ノ域ニ達シツツアリ。今後大イニ校地ノ擴張ト共ニ校舍設備ノ改善充實ヲ企圖セルモ支那事變勃發ニ伴ヒ國策ニヨリ必要缺クベカラザルモノノミニ限り許可スルノ止ムナキニ至ルノ現状ハ遺憾トスルモ之ガ對策ヲ講セシメ教育ノ萬全ヲ期シツツアリ。

學級編成ニ關スル教授ノ狀況

本年度ニ關スル教授ヲ實施セル學校ナシ。

學級數累年比較ヲ示セバ次表ノ如シ

種 別	昭和十年度	昭和十一年度	昭和十二年度	昭和十三年度	昭和十四年度
尋 常 小 學 校	1,606	1,615	1,632	1,641	1,642
高 等 小 學 校	376	384	403	408	421
計	1,982	1,999	2,035	2,049	2,063
前年度ニ比シ増	20	17	36	14	14

小學校令施行細則第三十五條第三項ニヨリ三學級毎ニ本科正教員二人ヲ置ク學校ニ關スル狀況

本年度ニ於テハ管内之ニ該當スルモノナシ。

公立學校ノ配置適否ノ狀況

山間部ニ於テハ地勢上通學困難ト認メラルル所相當數アルモコレ等ノ學校ニ於テハ分教場ヲ配置シテ其幣害除去ニ努メ居ルヲ以テ之ガ配置ハ概シテ適當ナリ。

私立學校ノ狀況

本年度ニ於テ新ニ私立學校ヲ設置シタルモノナシ。

補習科及加設科目ニ關スル狀況

補習科ハ本年度管内ニ該當事項ナシ。

加設科目ハ小學校令第十九條第二項ニヨリ尋常科ニ手工科ヲ加設セルモノ百七十四校同第二十條第二項ニヨリ高等科ニ英語ヲ加設セルモノ十二校アリ。

九月一日ニ始マル學年ヲ置ク學校ニ關スル狀況

本年度ニ於テハ管内之ニ該當スルモノナシ。

授業料ニ關スル狀況

授業料ハ尋常科ニ於テハ之ヲ徵收スルモノナカリシモ昭和九年度ヨリ師範學校附屬小學校ニ於テ一人月額五拾錢徵收セリ。高等科ニ於テハ徵收スルモ概ネ其ノ金額ハ小學校令施行規則第七十五條ノ制限以內ニ於テ之ヲ定メ同第七十六條ニヨリ制限ヲ超過シテ之ヲ徵收スルモノ三校ニ過ギズ尙本年度ニ於テハ今次事變ノ爲應召セル家庭ノ兒童ノ授業料ヲ免除セルモノ多ク其ノ數千四百二十二名ニ及ベリ。

教員ノ需要供給、勤續轉免、俸給加俸其ノ他待遇上ニ關スル狀況

本年度本科正教員數ハ千七百九十九名ニシテ學級數二千六十三ニ對シ二百六十四名不足スルモ之ヲ補充スルニ専科正教員百五十三名、准教員十四名、代用教員三百九十一名ヲ以テシ尙學級增加十四、教員出向五十一名、休退職百五十名、死亡十一名ニ伴フ異動ハ校長四十九名、訓導三百五十六名ノ轉補ニ及ベリ。

本年度ニ於ケル教員平均俸給額ハ本科正教員男六十九圓、女四十五圓、専科正教員男五十圓、女四十一圓、准教員男四十一圓、女三十四圓、代用教員男三十四圓、女三十圓ノ狀況ナリ。

教員増俸ハ之ヲ貳圓、參圓、五圓、拾圓ノ小段階トシ二年乃至四年以上經過シタルモノノ内成績優良ト認ムベキモノニ對シ増俸ヲ行ヒ其ノ數千二百四十一名ニ及ベリ。

現在年功加俸ヲ受ケツツアル人員ハ千五十名ナリ。

教員住宅料ハ規定ヲ設ケテ之ガ給與方ニ關シ督勵セルモ管内百七十二ケ市町村中住宅施設ノモノ八十ケ市町村居住教員數百十二名、住宅料支給ノモノ八十四ケ市町村四百六十四名、賃借料支拂ノモノ五町村十名ナリ。

小學校長中勅令第七十六號ヲ以テ奏任官ノ待遇ヲ受クル者百二十一名アリ。

幼 稚 園

幼稚園ハ公立一、他ハ私立ニシテ十一園アリ。收容セル園兒ハ男女合計千八百八十五名、保姆ハ有資格者二十四名、無資格者二十三名ナリ。幼稚園令第六條但書ニヨル三歳未満ノ幼兒ヲ入園セシムルモノナシ。

保育料ハ幼稚園ニヨリテ異ナレルモ概ネ一圓五十錢ヲ普通トシ入園料ヲ徵收スルモノハ五十錢ナリ。

保姆ノ供給ハ充分ニシテ其ノ待遇ハ參拾圓乃至五拾圓ニシテ勤續年數一般ニ永ク熱心ニ保育ニ從事シ其ノ成績良好ナリ。

師 範 學 校

學校ノ設置廢合及設備ノ狀況

本縣ニハ男子、女子師範學校各一校アリ。男子師範學校ニアリテハ本科一部五學級、二部二學級、専攻科二學級ヲ設置シ女子師範學校ニアリテハ本科一部五學級、二部二學級、専攻科一學級ヲ設置セリ。

昭和六年度教員過剩ノ對策トシテ同年度ヨリ男女師範學校共本科二部ノ募集ヲ中止シ續イテ昭和七年度ヨリ本科一部ノ募集ヲモ中止シタルモ將來ノ事情ヲ研究調査ノ結果昭和九年度ヨリ男女兩師範學校共本科一部一學級宛三十名ヲ募集シ本年度ニ於テモ一學級宛男子四十名、女子三十名ヲ募集ス。

本科二部ハ各一學級男子四十名、女子四十名、尙專攻科ハ男子四十名、女子二十名ヲ募集セリ。

男女兩師範學校共教授用圖書機械器具標本等ハ漸次充實シツツアルモ尙相當ノ設備ヲ要スルモノアリ。

有資格教員ノ教員免許狀ヲ受得シタル事由別

専任教員トシテハ教員養成ノ目的ヲ以テ設置シタル官立學校卒業者十九名、無試験檢定ニヨルモノ十二名、試験檢定ニヨルモノ七名計三十八名ナリ。

教員ノ需要供給、勤續轉免、俸給加俸其ノ他待遇上ニ關スル狀況

本年度内教員ノ新需要ニ對スル供給ハ何レモ圓滑ニシテ教育上支障ヲ見ズ。

男女兩師範學校ニ於ケル専任教員勤續ノ狀況次表ノ如シ

	勤續五年未滿ノモノ	勤續十年未滿ノモノ	勤續十五年未滿ノモノ	勤續二十年未滿ノモノ	勤續二十年以上ノモノ	計
男子師範學校	x 7	x 6	x 5	x 1	x 1	19
女子師範學校	12	4	3	—	—	19

x 印ハ訓導ナリ

年度内ニ於ケル教員ノ轉免ハ新任八名休退職三名出向二名ナリ。

俸給ハ本俸平均一人當奏任待遇教諭年額男千五百七十四圓、判任待遇教諭月額九十六圓、女七十六圓ナリ。

年功加俸ハ二百一圓ノモノ一名、百九十二圓ノモノ七名、百六十八圓ノモノ三名、百四十四圓ノモノ七名、百九圓ノモノ二名、九十六圓ノモノ九名、八十四圓ノモノ二名、七十二圓ノモノ二名、六十圓ノモノ二名、三十六圓ノモノ一名計三十六名ナリ。

教諭ニシテ奏任官ノ待遇ヲ受クルモノ男子師範學校六名、女子師範學校六名ナリ。

生徒訓育ノ狀況

生徒訓育ノ狀況ヲ見ルニ男子師範學校ニ在リテハ學校長指導ノ下ニ各學級主任ニ於テ專任薰化ニ任スルノ外通學生徒取締及寄宿舎ノ刷新改善ヲ圖リ成績良好ナリ。

特ニ軌近ニ於ケル社會ノ趨勢ト卒業後ニ於ケル職責ノ重大性トニ鑑ミ修養道場ヲ設ケ日本精神ノ体得ニ努メ極メテ眞摯ノ態度ヲ以テ修養ニ專念スルノ狀顯著ナリ。

女子師範學校ニ在リテハ團體ノ本義ニ基キ剛健ナル日本精神ヲ涵養シ貞淑ナル婦徳ヲ培養セシムルヲ以テ訓育ノ最高目標トス而シテ日本精神ハ婦徳ノ神髓ノ單ナル知的組織ニ非ズシテ行的組織ナレバ飽クマテ實踐躬行の鍛鍊ニ努ムルヲ旨トセリ。

生徒學業ノ進否

生徒學業ノ成績ハ男子師範學校ニアリテハ物理、化學、手工等ノ教授設備充實ニ伴ヒ學習上ノ效果漸次向上セシノミナラズ校風ノ振興ニ伴ヒ熱心ニ研究スルノ態度上進セリ。

女子師範學校ニアリテハ各擔任教師ニヨリ銳意向上ニ努メタル結果各學年共良好ナレドモ病氣ノ爲原級ニ止メタルモノ第一部四學年二名、五學年三名アリタリ。

生徒教練ノ狀況

生徒教練ハ配屬將校ノ指導宜シキヲ得生徒ノ態度良好ニシテ其ノ成績大イニ舉リ各方面ニ好影響ヲ與ヘツツアルガ殊ニ實實剛健ノ氣風養成上貢獻スル所大ナルヲ見ル。

生徒修學旅行ノ狀況

生徒修學旅行ハ男子師範學校ニ在リテハ第四學年ハ滿鮮方面へ、第三學年ハ京、阪、神、東京方面へ見學旅行ヲナシ、本科第二部第二學年ハ京、阪、神各地へ視察旅行セリ。

女子師範學校ニ在リテハ東京方面へ、本科第一部第四學年、第二部第二學年生徒ヲ旅行セシメタルガ何レモ出發前ニ於テ準備教育ヲナシ以テ相當ノ效果ヲ收メタリ。

入學志願者ニ關スル狀況

本年度ニ於テハ本科第一部男子四十名、女子三十名、第二部男子三十六名、女子三十七名並專攻科男子二十六名、女子九名ノ入學許可ヲナシタリ。

入學歩合ハ本科第一部男子三五・四〇%、女子四六・八八%、本科第二部男子四九・三二%、女子七四・〇〇%、專攻科ハ男子八三・八七%、女子八一・八二%ニ當レリ。專攻科ノ入學ニ關シテハ前年ノ通應募者少數ナルニヨリ尋常小學校本科正教

員在職者中ヨリ學力成績考査ノ上入學ヲ許可シ外ニ一部卒業生中ヨリモ許可シタリ。

卒業生就職ノ狀況

本年度卒業生ハ男子師範學校ニアリテハ第一部二十九名、第二部二十八名、専攻科二十五名中第一部二名、専攻科一名ヲ除キ、女子師範學校ニアリテハ第一部二十一名、第二部二十九名、専攻科九名中第一部二名、第二部四名ヲ除キ訓導トシテ就職シ、男子師範學校第一部二名ハ病氣ノ爲就職延期、専攻科一名ハ教員免許令 第三條ニヨリ 鳥取縣立倉吉農學校ニ就職セリ。

女子師範學校第一部二名、第二部四名ハ何レモ専攻科ヘ入學セリ。

附屬小學校ノ狀況

附屬小學校ハ男子師範學校ニ在リテハ本校地域内ニ設置シ學級數十ニシテ兒童ハ廣ク一般ヨリ募集シ選抜ノ上入學ヲ許可スルノ方法ヲ採レリ。

訓導ハ十一名ニシテ主事指導ノ下ニ毎年一回合同參觀ヲ舉行シ研究發表ヲナシ縣下初等教育ノ改善ニ資セリ外ニ鳥取市美保尋常高等小學校ヲ代用附屬小學校ニ充用シ本校生徒ヲシテ農村教育ノ實際指導ヲナセリ。

女子師範學校ニ在リテハ八頭郡育英尋常高等小學校ヲ代用附屬小學校トシテ本校トノ關係ヲ一層緊密ニシテ相互協同ノ下ニ研究並ニ教育效果ノ實績ヲ擧グルニ常時留意努力シ更ニ毎年一回女子初等教育研究会ヲ開催シテ縣下初等教育特ニ低學年教育ニツキテ研究協議ヲナシ其ノ進歩ヲ圖リツツアリ。

専攻科ニ關スル狀況

専攻科ハ男子師範學校ニアリテハ二十五名ヲ二學級ニ編成シ小學校教員中優秀ナル者ヲ選抜シ縣ノ推薦ニヨリ入學セシメ少數ノ者ヲ考査ノ結果入學セシム。

女子師範學校ニ在リテハ九名ヲ以テ一學級ヲ編成シ卒業生ハ何レモ就職セリ。

中 學 校

學校ノ設置廢合及設備ノ狀況

管内ニ於ケル公立中學校ハ縣立ノモノ四校、私立ノモノ一校アリ。一般ニ校舍ハ建築以來長年月ヲ經タル爲腐朽ノ箇所多ク又特別教室其ノ他必要ナル室ノ設ケ少キ爲生徒教養上支障ヲ來セルモ校舍ノ模様替ヲナシ校舍利用價值ノ増大ヲ圖リツツアリ。

有資格教員ノ教員免許狀ヲ受得シタル事由別

専任教員トシテハ教員養成ノ目的ヲ以テ設置シタル官立學校ノ卒業生二十六名、無試験檢定ニ依ルモノ五十六名、試験檢定ニ依ルモノ二十三名計百五十五名ナリ。

教員ノ需要供給、勤續轉免、俸給加俸其他待遇上ニ關スル狀況

本年度内教員ノ新需要ニ對スル供給ハ何レモ圓滑ニ行ハレタリ而シテ専任教員ノ勤續ノ狀況次表ノ如シ

	勤 續 五 年 未 滿 ノ モ ノ	勤 續 十 年 未 滿 ノ モ ノ	勤 續 十 五 年 未 滿 ノ モ ノ	勤 續 二 十 年 未 滿 ノ モ ノ	勤 續 二 十 年 以 上 ノ モ ノ	計
公立中學校	30	23	27	17	1	98

教員ノ異動ニ關シテハ新任六名、休退職四名、出向五名ナリ。俸給ハ本俸平均學校長年額二千三百九十五圓、奏任官待遇教諭年額千五百九十三圓、判任官待遇教諭月額九十二圓、年功加俸ハ二百一圓ノモノ九名、百九十二圓ノモノ十六名、百四十四圓ノモノ三十一名、九十六圓ノモノ十七名、七十二圓ノモノ二名ナリ。奏任官ノ待遇ヲ受クルモノハ校長四名、教諭二十三名ナリ。

生徒訓育ノ狀況

生徒訓育ハ學校ニヨリ其ノ實際ノ施設ノ狀況ヲ異ニスル所アルモ根本方針ハ何レモ勸語及詔書ノ御趣旨ヲ奉體シテ拳々服膺其ノ實踐ヲ行テ期スルニアリ其ノ施設ノ一斑ヲ擧グレバ校訓又ハ生徒心得等ヲ設ケテ日常生活指導ノ規準トシ個性ヲ調査シテ個別的訓練ノ徹底ヲ期シ生徒係ヲ設ケテ校下巡視並ニ下宿生徒ノ狀況ヲ視察セシメ郊外指導ヲ圖リ又集團ノ勤勞作業ヲ行ハシメ時局下勤勞愛好ノ氣風ヲ振作シ校風ノ發揚ト堅忍不拔ノ精神涵養ニ努力セリ。

生徒學業ノ進否

生徒學業ニ關シテハ各學校共學習態度ヲ一層研究的ナラシムル様指導シ、劣生指導ニ就テハ個別的指導法ヲ採リ尙揭示教育

ヲ始メ事變關係及時事的智識ヲ與フル様努メタル結果相當ノ成績ヲ擧ゲタリ。

生徒教練ノ狀況

生徒ハ本教練ノ目的タル心身ヲ鍛鍊シ國體的觀念ヲ涵養シ以テ時局下日本精神ノ發揚、滅私奉公ノ精神ヲ振作センガ爲熱心ニ學習セシテ以テ其ノ成績何レモ良好ナリ。

生徒修學旅行ノ狀況

修學旅行ノ必要ナルハ論ヲ保タザルモ父兄ノ負擔輕減スルノ意味ト且ハ卒業後ニ於テ各所ヲ見學スルノ機會多キヲ以テ一時之ヲ中止シテ近郊ニ遠足シ或ハ工場、裁判所等ノ見學ヲ行フノ傾向ニアリ。

入學志願者ニ關スル狀況

入學志願者數ハ學校ニヨリ相違アリ。

志願者ニ對シ入學ヲ許可シタルモノハ五三・八七%ニ當レリ。

入學者父兄ノ職業別

各學校ニ於テ多少ノ相違ハアレドモ之ヲ綜合スルニ農業三〇・五六%、公務自由業二八・三六%、商業一九・一〇%等其ノ主ナルモノナリ。

生徒將來ニ於ケル希望狀況

第四學年、第五學年生徒ノ將來ニ於ケル希望ヲ調査スルニ專門學校及實業專門學校ニ進マントスルモノ三〇・三六%ニシテ最も多ク、高等學校又ハ大學豫科ニ進マントスル者一六・二五%、直ニ實業ニ就カントスル者一三・一五%、陸海軍諸學校ヲ希望スル者九・五六%ノ狀況ナリ。

豫科補習科ニ關スル狀況

管内之ニ該當スルモノナシ。

高等女學校

學校ノ設置廢合及設備ノ狀況

管内ニ於ケル公立高等女學校ハ縣立ニ係ルモノ五校、市立一校、公立實科高等女學校ハ高等小學校ニ併置ノ町村學校組合立ノモノ一校アリ。

設備ノ狀況ニ就テハ各校共漸次充實ノ域ニ達シツツアルモ尙相當ノ設備ヲ要スルモノアリ。

有資格教員ノ教員免許狀ヲ受得シタル事由別

専任教員ニアリテハ教員養成ノ目的ヲ以テ設置シタル官立學校ノ卒業生二十名、無試験檢定ニヨルモノ五十八名、試験檢定ニヨルモノ二十二名計百名ナリ。

教員ノ需要供給、勤續轉免、俸給加俸其ノ他待遇上ニ關スル狀況

本年度内ニ於ケル教員ノ新需要ニ對スル供給ハ圓滑ニ行ハレタリ。専任教員勤續ノ狀況次表ノ如シ

	勤續五年 未滿ノモノ	勤續十年 未滿ノモノ	勤續十五年 未滿ノモノ	勤續二十年 未滿ノモノ	勤續二十年 以上ノモノ	計
公立高等女學校	36	33	19	9	6	103
公立實科高等女學校	2	—	1	—	—	3

教員異動ハ教諭新任十三名、休退職七名、出向三名、俸給ハ本俸平均學校長年額千七百六十二圓、奏任官待遇教諭年額男千四百二十一圓、女千八十圓、列任官待遇教諭月額男八十四圓、女七十一圓、年功加俸ハ二百一圓ノモノ九名、百九十二圓ノモノ十一名、百五十六圓ノモノ一名、百四十四圓ノモノ二十一名、百八圓ノモノ二名、九十六圓ノモノ十三名、七十二圓ノモノ十四名ナリ。奏任官ノ待遇ヲ受クルモノハ校長六名、教諭二十二名ナリ。

生徒訓育ノ狀況

生徒ノ訓育ハ各學校共、勅語、詔書ノ聖旨ヲ奉體シテ國民精神ノ涵養ニ努メ婦德ノ修養ニ留意スルト共ニ健全ナル思想ヲ涵養シ勤儉力行克ク家庭ノ實務ヲ處理スルニ足ルベキ能力ヲ附與スルコトヲ主眼トシ特ニ戰時体制下ニ於ケル國民トシテ非常時局ノ認識ト之ニ對應スル堅忍持久、舉國一致、盡忠報國以テ現下非常時ヲ突破スルニ足ルベキ訓練ヲナセリ。尙各學校共勤勞的精神養成ニ關シテハ特ニ留意スル所アリ園藝、家事、裁縫、手藝等ノ學科ニ精勵セシムルノ外勤勞奉仕作業班等ヲ編

成シ一般作業掃除並造園計畫等ノ能率ノ達成ヲ期スルト共ニ斯ル勤勞作業ヲ通ジテ人格陶冶ヲ圖ル一方勤勞ヲ愛好スルノ風ヲ生シムルコトニ力メタリ。而シテ訓育ノ一般的施設トシテ朝禮、終禮、學友會等ニヨリテ訓育ノ統一ヲ圖リ家庭調査、性行調査等ニヨリテ個別指導ヲ適切ナラシメンコトヲ期シ生徒ノ校外監督ヲ徹底セシムルガ爲職員分擔シテ之ニ當リ訓育ノ徹底ヲ期スル等努力スル所尠カラズ成績良好ナルヲ見ル。

生徒學業ノ進否

教授ニ就テハ各教科ノ教授方針ヲ定メ其ノ進展ニ留意シ時々各科教授打合會ヲ開キ相互ノ連絡ヲ圖リ特ニ鳥取高等女學校ニ於テハ職員全部ヨリナル實地授業研究會ヲ設ケ毎月一回職員相互ノ教授批判研究會ヲ開催スル等教授法ノ改善ニ努力シ又生徒ニハ自學自習ヲ獎勵シ學習態度ノ養成ニ努メタル結果各學校共學業成績良好ナリ。

入學志願者ニ關スル狀況

縣立高等女學校ノ入學者數ハ志願者數ニ對シ六四・七六%ニシテ學校ノ位置ノ關係上志願者相當多キモノアリ。

本科實科入學者父兄ノ職業別

本科ハ公務自由業二九・八二%、商業二五・三四%、農業二四・二二%其ノ主ナルモノニシテ實科ハ殆ンド農業ニシテ八〇・六一%ニ當レリ。

選科生、補習科、專攻科ニ關スル狀況

補習科ヲ設置セルハ縣立鳥取高等女學校、市立因幡高等女學校及本年度ヨリ新ニ設置セル縣立米子高等女學校ノ三校ニシテ鳥取高等女學校ニ於テハ補習科ノ學則ヲ改正シ一部、二部ニ分チ其ノ目的ニヨリ選擇セシムルコトトセリ。一部ハ上級學校入學志願者及小學校教員檢定志願者ヲ、二部ハ裁達ヲ主トシテ夫々教養ヲ積マシム。選科生、專攻科ハ管内之ニ該當スルモノナシ。

實 業 學 校

學校ノ設置廢合及設備ノ狀況

管内ニ於テハ公立實業學校ハ縣立ニ係ルモノ農業學校一、農林學校一、工業學校二、商業學校一、商工學校一、計六校、市立及町村學校組合立ニ係ル職業學校二校、町立ニ係ル乙種商業學校一校、町村學校組合立ニ係ル乙種農業學校一校アリ。尙本年度九月ニ新設セラレタル縣立鳥取工業學校ハ男子師範學校ノ一部ヲ假校舍トシテ使用シ、校舍數地トシテ指定セル鳥取市立川町矢津ニ新築ヲ急ギツアリ。

教員ノ資格別

教員ノ資格別ハ有資格教諭、專任男七十九名、女九名ニシテ無資格者ハ男九名ナリ。

教員ノ需要供給、勤續轉免、俸給加俸其ノ他待遇ニ關スル狀況

教員ノ需要供給ハ圓滑ニシテ補充上不悞ヲ感ズルコトナシ。

專任教員ノ勤續狀況ハ次表ノ如シ

	勤 續 五 年 未 滿 ノ モ ノ	勤 續 十 年 未 滿 ノ モ ノ	勤 續 十 五 年 未 滿 ノ モ ノ	勤 續 二 十 年 未 滿 ノ モ ノ	勤 續 二 十 年 以 上 ノ モ ノ	計
公立實業學校	43	15	16	20	1	95

教員ノ異動ハ新任二十六名、休退職五名、出向七名ナリ。

公立學校ノ教員俸給ハ本俸一人當學校長年額二千七圓、奏任官待遇教諭年額男一千四百二十四圓、女一千二百圓、判任官待遇教諭月額男八十六圓、女六十五圓、助教諭男七十圓、年功加俸ハ二百一圓ノモノ六名、百九十二圓ノモノ二十二名、百五十六圓ノモノ一名、百四十四圓ノモノ十六名、百二十圓ノモノ一名、百八圓ノモノ四名、九十六圓ノモノ十名、七十二圓ノモノ四名、六十圓ノモノ一名ナリ。奏任官ノ待遇ヲ受クルモノハ學校長八名教諭十八名ナリ。

生徒訓育ノ狀況

生徒訓育ニ就テハ何レモ勅語及詔書ノ聖旨ヲ奉體シテ國體觀念ヲ明徴ニシ忠君愛國、敬神崇祖ノ念ヲ鞏固ナラシムルト共ニ人格ノ陶冶ヲ圖リ質實剛健、自治協同、規律、勤勉、正直、禮讓、忍耐、進取ノ諸德涵養ニ力ヲ致シ、就中勤勞ヲ尊重愛好スルノ態度ヲ養成スルコトニ最モ努力ヲ拂ヒ尙時局ニ對スル國民精神作興ニ力ヲ致シ以テ健全ナル中堅青年技術者ノ養成ニ邁進セリ。訓育一般ノ施設トシテハ個性調査ヲナン個別的訓育ヲ適切ナラシムル事ヲ期シ校外取締ヲ嚴ニシ家庭トノ連絡ヲ緊密ナラシメ訓育ノ徹底ヲ圖リ何レモ其ノ成績良好ナリ。

生徒學業ノ進否

教授ニ就テハ平業ヨリ各學科ノ進度ニ留意シ生徒ノ出席歩合極メテ良好ナルトニヨリ學業ノ進歩良好ナルヲ見ル。

生徒教練ノ狀況

生徒ノ身心ヲ鍛鍊シテニ團體的訓練ヲ重ンジ一層生徒ノ資質陶冶ヲ期スルト共ニ教練ノ日常化ヲ圖リ時局ノ認識ヲ深カラシメ堅忍敢爲ノ精神ヲ涵養スルニ努ム。本年度ニ於テモ引續キ事變ノ爲配屬將校、教練教師應召スルモノアリ相當支障ヲ生ジタルモ其後銳意教授ノ補足等ヲナシ尙生徒ハ教練ノ目的ヲ理解シ相當ノ意氣込ヲ有スルト共ニ一般ニ緊張シテ教練ニ從事シ各學校共各學年豫定ノ進度ニ達ス。

生徒修學旅行ニ關スル狀況

生徒修學旅行ハ學校ニヨリ一樣ナラザルモ上級生徒ハ京阪神及東京方面へ下級生徒ニハ縣内及隣縣ヘ旅行セシムルヲ普通トシ其ノ費用ニ就テハ父兄出費ヲ可及的容易ナラシムル爲概ネ生徒入學當初ヨリノ旅行貯金ニヨレリ。

入學志願者ニ關スル狀況

入學者ハ志願者ニ對シ縣立ニ於テ農業學校ハ四四・六九%、工業學校ハ二二・四七%、商業學校ハ五一・七四%、商蠶學校ハ三三・七四%等ニシテ中等學校及女學校ニ比シ競争相當激甚ナルヲ見ル。

卒業者就職ノ狀況

卒業生ノ就職ハ農學校及農林學校ニ在リテハ卒業後農林業ニ従事シ農村ノ中堅人物タラシムルヲ主眼トセルニヨリ生徒教育ニ當リテモ此ノ本義ニ則リ専ラ各個人ノ事情ニヨリ卒業後ノ就職ヲ按配シツツアリト雖モ今次事變ノ影響ニヨリ各方面ニ人的資源ノ缺乏ヲ來セルニ、新興滿洲國ノ日本人官吏ノ採用申込激増セルタメ内地外地ヲ問ハズ卒業生ノ就職希望者漸増ノ傾向著シキモノアリ。工業學校ニ在リテハ軍需工業ノ活況ニツレテ年度當初ヨリ多數ノ採用申込アリ中途ニ於テ大部分ノ就職配當ヲ終了シ需要ニ應ジ難ク辭退セルモノ頗ル多キ現狀ナリ。商蠶學校ニアリテモ産業經濟界ノ好調ニツレテ商業科卒業生ニアリテハ十二月ニ豫約成リ。蠶業科モ亦就職狀況良好ナリ。商業學校ニ在リテハ年度中途ヨリ多數ノ採用申込アリ年度内ニハ全部就職ヲ見タリ。

生徒研究、實驗實習及之ニ關スル設備ノ狀況

農學校ニアリテハ農業ニ關スル各科目及物理化學等ノ科目ハ何レモ生徒ヲシテ實習實驗ヲナサシムルヲ以テ生命トシ實驗實習要目ヲ定メテ之ヲ實施セリ尙農林學校ニアリテハ第三學年ニ特ニ學科實習餘暇ヲ利用シ一人一研究的ニ各自其ノ欲スル科目研究事項ヲ選抜セシメ所謂卒業論文ノ集録、將來ノ參考ニ資スルト共ニ研究心涵養ノ基ヲ作ラシム。又之ニ關スル設備漸次充實シツツアリ。工業學校ニアリテハ生徒ニ課スル實習ハ専門學科ニ必要ナル技術ニ習熟セシムルト同時ニ創作力ヲ養ヒ、發明發見ノ道程ニ導カムコトヲ本旨トシ實教授ト關係學科教授トノ密接ナル連絡ヲ圖リ又其ノ過程ハ易ヨリ難ニ、簡ヨリ繁ニ進ミ自己ノ發意ト興味トヲ以テ實習作業ニ當ラシムル事ニ力メ夫々具體的方案ヲ定メテ之ヲ實施セリ。又別ニ夏期休業ヲ利用シ民間竝ニ官廳ノ工場ニ入り現業練習ヲナサシメ、學理ト實際トノ關係實技ノ練習等ニ研究ヲ遂ゲシメタリ。商業學校ニ在リテハ第五學年生徒ニ既習事項ノ應用、獨自研究心養成ノ目的ヲ以テ夏期休業中商品ノ調査研究ヲナサシメ商業實習トシテ校内ニ販賣部ヲ置キ學用品等ノ販賣ヲナサシメ五年生ニハ交互ニタイプライター、計算器ノ實習並會社、銀行等ノ模擬實習ヲナサシメタリ。商蠶學校ニアリテハ商業科ニ於テ第五學年ニ商業模擬實踐ヲ課シ特別實踐指導ヲ課シテ商業ノ實際的技能ヲ養成シ夏季休暇中有志生徒ヲシテ商業實習ヲナサシメテ相當ノ效果ヲ收メ尙飾窓實習ヲ課シ又校内ニ販賣部ヲ設ケテ商業實務練習ヲナサシメタリ。蠶業科ニ於テハ春秋蠶期ニハ相當職量ヲ擔當個人飼育ヲナサシメ尙繰糸、眞綿製造織物實習ヲナシ夏季休暇中ニハ勞力不足ノ軍人遺家族ニ勞力奉仕ヲ兼ネ校外實習ヲナサシメタリ。

學校ト實業界トノ關係

倉吉農學校ニアリテハ農業研究會、青年團、婦人會、處女會等ノ主催ニヨリ講習會、講演會等ノ要求ニハ差支ヘナキ限リ各擔任教師ヲ派遣尙參觀視察スルモノアルトキハ各種施設ヲ説明ヲナシ農業改良ノ趣味ヲ注入シ特ニ宿泊ヲ希望スル者ニ對シテハ進修會館ニ宿泊セシメ宿泊中ニ於ケル各種ノ指導ヲナシ地方産業上ニ貢獻シツツアリ、日野農林學校ニアリテモ地方特産品共進會、實業團體懇談會開催ニ當リテハ職員努メテ出席シ男女青年團、青年學校等ヨリ委囑ヲ受ケ各種講演、講習會講師トシテ出張斯界ノ向上發展ニ努メ尙參觀視察スルモノニハ施設ヲ開放シ農業知識ノ普及ニ努メツツアリ。工業學校ニ在リテハ常ニ實業界トノ連絡ヲ圖リ實業ニ従事セムトスル者及従事セル者ノ指導啓發ニ力ヲ注ギ學校ノ設備ノ如キモ事情ノ許ス限リ實業家ノ使用ヲ許シ又他ヨリノ依頼ヲ受ケ各種試驗ヲ施行ナス等理科學的知識ノ普及ニ努力セリ。商業學校ニ在リテハ生徒ヲシテ商業ノ實際ニ通セシムルノ一法トシテ時々知名ノ實業家ヲ聘シテ事業上ノ經驗談ヲ聽カシメ又本縣出身ノ有力ナル實業家及卒業生ヲ採用セル會社、銀行、商店等ノ重役、店主等ヲ訪問シテ商工業ノ事情ヲ尋ネ且ツ卒業生ニ關スル感想ヲ聽キ生徒教養上ノ參考ニ資スルト共ニ其ノ機會ヲ利用シテ卒業生ノ就職斡旋ヲナシ又諸種ノ團體ヨリ商品鑑定、店頭裝飾審査若クハ實業講演等ヲ依頼セラルル時ハ適當ナル職員ヲ派遣シ實業ノ改善振興ニ努力セリ。商蠶學校商業科ニ在リテハ商工

會議所ト連絡ヲトリ球算競技大會ヲ開催シ夏期休暇ヲ利用シテ上級生徒ヲ市内會社、商店ニ委託校外實務練習ヲナシメ又市内商店ノ裝飾窓陣列ノ囑託ヲ受け且米子市役所主備ノ詠種ノ講習會ノ講師トナル等陰ニ陽ニ地方産業ノ發展開發ニ努メタリ。

蠶業科ニアリテハ農村諸種ノ團體、組合、蠶業關係者ノ顧問機關トナリ養蠶指導ノ爲講習講話會ニ臨ムハ勿論校務ニ妨ゲナキ限リ努メテ巡迴實地指導ヲナシ又西伯郡内篤農家座談會ヲ開催シ多數篤農家ノ會集ヲ得時局ニ鑑ミ農蠶業ニ關スル重要問題ニ付研究討議シ以テ蠶業ノ改善發達ヲ圖ルト共ニ實社會ニ於ケル其ノ趨勢ヲ窺知シ生徒教授上ノ參考トナセリ。

青年學校義務就學者

就學ニ關スル規則施行ノ狀況

實務ニ從事スル男女大衆青年ニ對シテ普ク教育ノ機會ヲ與ヘ以テ國家有爲ノ人材ヲ育成スルハ我國運ノ進展ヲ期スル所以ナルヲ以テ青年學校教育ヲ速ニ義務制トナスベシトノ議ハ多年ノ懸案ナリシガ時局ノ深刻化ニヨリ之ガ急速ナル實施ノ必要迫リ、昭和十四年四月二十六日勅令ヲ以テ青年學校令ノ改正ヲ見取敢ズ男子青年ニ對シ青年學校教育ノ義務制ヲ實施セラル、コトトナレリ。依テ本縣ニ於テモ昭和十五年二月二十七日青年學校令施行細則ヲ公布シ其ノ徹底ヲ期セリ。

而シテ就學ノ義務ハ本年普通科第一學年ノミナルモ途次年ヲ追ツテ完成スルコトト規定セラレタルモ、本縣ニ於テハ全學年ニ對シ准義務制ヲ布キ學校就學該當者ノ皆就學全出席ヲ期シ着々其ノ成績ヲ擧ゲツ、アリ。

就學獎勵ニ關スル施設事項

青年學校令施行細則ノ公布ト共ニ町村並ニ學校兩當事者ヲ縣下三ヶ所ニ召集シ講習、協議會ヲ行ヒ之ガ趣旨及事務處理上ノ徹底ヲ期セリ。尙各學校ニ於テハ義務制實施記念行事ヲ行ヒ、父兄、雇傭主等ニ呼ビカケ又不就學者ノ絶無ヲ期スル爲諸種ノ施設ヲ講ジ義務制ノ趣旨徹底ニ努メタリ。

就學猶豫又ハ免除ニ關スル事由

義務就學者中、青年學校令第十四條ニヨリ就學義務ヲ猶豫又ハ免除シタル者ノ事由別人員ハ次表ノ如シ

	猶 豫			免 除						合 計
	病 弱	其 他		瘋 癲	白 痴	不 具	癱 疾	其 他		
普 通 科	2	—	—	—	1	—	—	—	3	

青 年 學 校

學校ノ設置廢合及設備ノ狀況

義務制實施ニヨリ市町村ハ其ノ區域内ノ義務就學者ヲ就學セシムルニ必要ナル青年學校ヲ設置スルノ義務ヲ有スルニ付市町村等ノ意見ヲ求メ縣ニ於テ校數及位置ノ指定ヲナシ又學校設備ノ充實ニ意ヲ用ヒツツアリ。一方私立青年學校ノ設置ヲ促進シ、工場、商店等ニ勤勞セル實務青年ノ就學徹底ニ努メツツアリ。學校數ハ公立百八十七校、私立九校アリ、之ヲ男女別ニ見レバ男子ノミノ學校公立四校私立一校、女子ノミノ學校公立二校、私立七校、男子及女子ノ學校公立百八十一校、私立一校アリ。公立ノ内市町村立ノ外ニ町村學校組合立二校アリ。右ノ内獨立校舍ヲ有スルモノハ五校ニシテ他ハ公立ニアリテハ小學校ノ校舍ヲ充用シ私立ニアリテハ工場ノ一部ヲ校舍トシテ充用セリ。其ノ他專用教室ヲ特設セルモノ或ハ机、椅子等ノ校具ヲ青年學校專用ノ設備トセルモノ漸次増加シツツアリト雖モ未ダ十分ナリト言フヲ得ズ。依ツテ縣ニ於テモ成ルベク速カニ適當ノ設備ヲ充實セシムル儻勸奨シツツアリ。尙職業科、家庭科教育ノ充實ヲ圖ル爲、學校實習地、部落實習地、家庭實習地等ノ設置並ニ裁縫室、家事室等ノ設備及教練科ノ資材充實ヲ獎勵シ、學校當局亦各種ノ努力ヲ拂ヒ逐年其ノ成績向上シツツアリ。

教員ノ資格別

教員數モ年々増加シ、有資格教員男九百八十七名、女二百七名、無資格男八十名、女三十二名ナリ。尙專任教員男百九十一名、女六十一名アリ。

教員ノ需要供給、勤續轉免、俸給加俸其ノ他待遇上ニ關スル狀況

教員ノ需要供給ノ狀況ヲ見ルニ青年學校教員養成所ノ卒業生ノミニテハ目下ノ處需要ヲ充タスコトハ困難ナルモ小學校教員中ヨリ任用替セルモノ或ハ他ヨリ轉職ノモノヲ以テ適宜ノヲ補充シツツアリ。

專任教員勤續ノ狀況次表ノ如シ

	勤続五年未滿 ノモノ	勤続十年未滿 ノモノ	勤続十五年未 滿ノモノ	勤続二十年未 滿ノモノ	勤続二十年以 上ノモノ	計
公立青年學校	121	31	50	22	7	231

専任教員ノ俸給ハ最高月俸百五十一圓、最低三十二圓ナリ。

年功加俸ハ公立學校職員年功加俸令ニヨリテ支給シ受給者百三十名アリ。

生徒教授及訓育ノ狀況

生徒教授及訓練ノ狀況ハ學校ニヨリテ其ノ施設一ナラズト雖モ勅語及詔書ノ御趣旨ヲ奉體シテ獻身奉公、質實剛健ノ氣性ヲ修練シ、自治勤勉ノ習慣養成ニ力ヲ致シ就中實習ヲ通ジテ町村更生ノ先驅者タルノ抱負ヲ養ヒ、専任教員ヲ有スル學校ニアリテハ特ニ生徒ノ家庭ニ就キ其ノ指導ニカメ、皇國民トシテノ鍊成ヲ期シ其ノ成績見ルベキモノアリ。

特ニ畏クモ五月二十二日ニハ青少年學徒ニ對シ優渥ナル御勅語ヲ下シ給ヒ、教育ノ任ニアル者、聖勅ニ昭示シ給フ所ヲ奉體シ夙夜匪懈子弟ノ誘掖ニ努メ無極ノ皇恩ニ答ヘ奉ラムコトヲ期シ各種施設ヲ講ジ指導ニアタリツツアリ。

生徒學業ノ進否

教授及訓練ハ専ラ生活ニ必須ナル事項ヲ選ビ輔導啓發ニヨリテ生徒ノ自發活動ヲ促進シ自學自習ヲ獎勵シ殊ニ實際事項ニ就キ理論的研究ヲ指導スルニ努メ學業ノ進歩良好ナルヲ見ル。

生徒修學旅行ニ關スル狀況

生徒修學旅行ノ多クハ縣内産業ノ視察、兵營見學、神社佛閣參拜、史蹟名勝地見學、登山等ヲ行ヒ中ニハ京阪神地方、島根縣地方ヘ見學旅行ヲ行フモノアリ。

入學志願者ニ關スル狀況

全縣下ニ准義務就學ヲ勵行シ市町村及各學校共就學徹底ノ爲諸種ノ施設方法ヲ講ジツツアリ其ノ成績ハ漸次良好トナリタルモ市部ニ於テハ今尙未就學者アリ一層就學ノ徹底ニ努力ヲ要スルモノト認ム。

教練査閲ノ狀況

縣下ヲ七區ニ區分シ九月上旬ヨリ十二月上旬ニ至ル約四ケ月ニ亘リ之ヲ實施シ本年度ニ於テ百七十校査閲ノ結果其ノ成績著シク向上セルヲ見ル。

生徒研究實驗實習及之ニ關スル設備ノ狀況

併設青年學校ニ於テハ生徒ノ研究實驗實習ニ關スル設備ハ概ネ併設學校ノ設備ヲ利用スルヲ常トス。而シテ農業ニ關スル學校ニ在リテハ特ニ部落實習、家庭實習ノ徹底ニカメ生徒ヲシテ白ラ設計ノ上實習セシメ其ノ間ニ於テ自發實驗研究ヲナサシメツツアリ。之ガ獎勵ノ結果反省ノ爲、品評會、展覽會等ヲ開催スルモノ多シ。商業、工業ニ關スル學校ニ於テハ銀行、商店、工場等ニツキ實務ノ見學、實習ヲナサシメ學習ノ徹底ヲ圖レリ。

學校ト實業界トノ關係

農業ニ關スル學校ニ在リテハ學校實習地、家庭實習地ニ於ケル栽培並ニ改良種苗ノ配付等ニヨリテ當業者ノ産業改善ニ資シ又生徒ニ對スル講話、實習指導等ヲ篤農家ニ囑託シ以テ學校ト實業界トノ連絡ヲ圖レリ。水産ニ關スル學校ニ在リテハ特ニ漁業組合トノ關係ヲ密接ナラシメ、商業、工業ニ關スル學校ニ在リテハ銀行、會社、商店、工場等トノ連絡ニ努メツツアリ。特ニ時局下産業報國運動ノ第一線ニ立ち、木炭増産、飼料増産、食糧増産等ノ運動ニ多大ノ貢獻ヲナシツツアリ。

青年學校教員養成所

青年學校教員養成所ハ鳥取高等農業學校内ニ設置シアリ。其ノ修業年限ハ從來一ケ年ナリシモ昭和八年度之ヲ延長シテ二ケ年トシ、昭和十三年修業年限一ケ年ノ臨時養成科ヲ附設シ三學級編制トセリ。學科教授並ニ農學實驗設備ハ概ネ鳥取高等農業學校設備ヲ充用セルモ生徒ノ生活訓練設備トシテ昭和十二年ヨリ農場ヲ附屬スル塾舎ヲ設ケ更ニ昭和十四年ニハ總建坪九十七坪ノ塾舎ヲ新築シ内容ノ整備ニ努メタリ。

教員ハ専任教諭四名トシ他ハ何レモ鳥取高等農業學校並ニ近接中學校ヨリ講師ヲ囑託ス。生徒ノ訓育ニ關シテハ専任教員其ノ衝ニ當リ、生徒全員ヲ塾舎ニ收容シ師弟寢食ヲ共ニシツツ師德ノ涵養ニ努メツツアリ。

學理ノ研究及實技ノ練習ニ關シテハ鳥取高農ノ人的、物的施設ヲ利用シ得ルヲ以テ多大ノ便アルノミナラズソノ實績モ見ルベキモノアリ。生徒ノ教育實習ハ岩美郡面影村青年學校ヲ代用附屬青年學校トシテ基礎的訓練ヲ施シ尙縣内優良青年學校三校ヲ選ビテコレニ一定期間委託スルノ制度ヲ設ケ之レニ於テ應用的訓練ヲ施シ、農村青年指導者トシテノ訓練ニ努メタリ。

第二學年生徒ハ夏季三ヶ月間、興亞青年勤勞報國隊員トシテ滿洲ニ派遣シ現地ニ於テ國防、建設、生産並ニ文化工作等ノ集團の勤勞訓練ニ從事セシメ以テ興亞ノ精神ヲ体得セシムルニ努メタリ。

昭和十四年度ヨリ青年學校教育義務制實施セラレタルヲ以テコレガ中樞タルベキ專任教員ノ養成ハ極メテ緊要トナリ、到底從來ノ如キ併設の施設ヲ許サザルノ情勢トナリタルノミナラズ、鳥取高農モ獸醫學科ノ配置ニ依リ設備ニ餘裕ナキニ至リタルヲメ昭和十五年度ヨリ青年學校教員養成所ヲ獨立セシムルコトトシ其ノ所要豫算五三、〇九五圓ハ昭和十四年度通常縣會ニ於テ議決承認ヲ得タリ。

盲學校及聾啞學校

學校ノ設置廢合及設備ノ狀況

管内ニ於テハ明治四十三年ノ創立ニ係ル盲啞學校一校アリ。當時財團法人トシテ獨立經營シ來リシガ昭和六年縣立代用盲啞學校ニ指定セラレ昭和十二年縣立移管トナリ鳥取縣立鳥取盲聾啞學校ト改稱セラル。設備ニ於テハ昭和八年度來文部省ヨリノ特別設備補助ニヨリ、面目チ一新シツアリト雖モ他校ニ比シ今尙遜色アルヲ免レズ。

學校維持ニ關スル狀況

昭和十二年度ヨリ縣費支辨トナリタリ。

教員ノ需用供給、勤續轉免、俸給加俸其ノ他待遇上ニ關スル狀況

教員ノ需要供給ニ關シテハ昭和十二年度縣ニ移管セラレタルモ經費ノ關係上尙資格者ヲ採用スル事僅少ニシテ有資格三ニ對シ無資格者ハノ現状ニアリ、凡ソ教育ノ效果ハ優良教員ノ勤續ニ待ツ事甚ダ大ニシテ特ニ斯教育ニ於テハ然リトナス。然ルニ經費ノ關係上轉出者多ク教育ノ效果向上ニ甚大ナル影響アルヲ懼ル。

生徒訓育ノ狀況

本校生徒ハ正常者ト異ナリ何レモ盲聾啞者ヲ以テシ其ノ性格特有ナルヲ以テ之レガ訓育ハ頗ル至難ノ事ナリト雖モ確固タル信念ノ下ニ終始一貫不斷ノ努力ヲ拂ヒ所定ノ訓育施設ニ從ヒアラユル機會ヲ捉ヘテ之レガ指導ヲナシ成績ノ向上ニ努力ヲ拂ヒツツアルモ教員中無資格者多數アル爲遺憾ノ點點シトセズ。

生徒學業ノ進否

本校生徒ハ何レモ智育取得ノ貴重ナル器官ヲ缺ク失官者ナリ。從テ學業ノ進歩ハ普通人ニ比シテ進歩發達ノ度劣ル處アルハ當然ノ事ナリト雖モ近時斯教育ノ研究進歩著シク進ミ又本校生徒モ此ノ軌道ニ則リ次第ニ進歩ノ道程ヲ辿リツツアリ。

生徒卒業後ノ狀況

盲部中等部鍼灸科、別科卒業生ハ鍼灸按摩マツサージ術ヲ以テ立身シ聾啞部中等部技藝科卒業生ハ表具、家具挽物等ニヨリ又聾啞部初等部卒業生ニシテ職ヲ求ムルモノハ農業、養蠶、果樹栽培等家業或ハ希望ニヨリテ生計ヲ維持シ居レリ。

各種學校

各種學校ハ中學校ニ類スルモノ二、實業學校ニ類スルモノ五、其ノ他ニ類スルモノ一、計八校ニシテ何レモ私立ニ係ルモノナリ。教員數九十三人、生徒數九百七十一人アリ。何レモ授業料其他ニヨリ維持經營シ相當ノ成績ヲ收メツツアリ。

學校ニ於ケル體育運動及衛生

學校醫、幼稚園醫、學校齒科醫、幼稚園齒科醫執務ノ狀況

學校醫ハ小學校中等學校ニハ殆ソド普及セルモ私立各種學校及幼稚園ニハ未設置ノモノ多ク青年學校ニ在リテハ規定公布以來日尙淺ク現在設置セルモノ僅少ナルモ漸次普及セムトシツツアリ。學校齒科醫ニ關シテハ昭和二年以來之ガ設置ヲ獎勵シツツアレドモ現在設置セルモノハ小學校百十校、中等學校十八、青年學校六校、幼稚園一ニシテ未ダ一般ニ普及セザル狀況ニ付將來學校醫ノ設置ト共ニ之ガ設置獎勵ニ努ムル方針ナリ。

學校醫並學校齒科醫ハ學校長ト協力シテ生徒兒童ノ日常衛生ニ關スル講演、講話ヲナシ又ハ身体檢査ノ結果並ニ學校衛生ノ實際狀況ニ基キ夫々適當ナル措置ヲ講ズル等熱心ニ執務スル者アルモ一面地方ニ於ケル開業醫ナルヲ以テ未ダ其ノ域ニ達セザルモノアルヲ遺憾トス。

學校看護婦ノ設置及執務ノ狀況

昭和二年縣訓令ヲ以テ學校看護婦ノ設置並ニ職務服務ニ關スル規程ヲ公布シ其ノ設置獎勵ニ努メツツアレドモ財政ノ關係上急速ナル普及ヲ見ズ。現在鳥取縣師範學校附屬小學校及市立因幡高等女學校ヲ合セテ三十六校ニ達シ内十八名ノ看護婦ハ專任ナルガ故ニ日々出勤シテ學校長監督ノ下ニ學校醫並ニ學校齒科醫ノ指揮ヲ受ケテ職務ニ從事シ成績顯著ナルヲ見ル。縣ト

シテハ町村財政ノ實情ト學校看護婦ノ必要ニ鑑ミ過渡期ノ對策トシテ昭和十一年度ヨリ學校衛生技師ヲシテ女子師範學校生徒ニ學校看護婦トシテ必要ナル講義並ニ實習ヲ行ハシメツツアリ。

衛生設備ニ關スル狀況

學校設備ニ關シテハ校地ノ選定ニ就テハ深ク注意セル所ナルガ故ニ不適當ナルモノハ極メテ稀ナリ。校舍其ノ他ノ建物ニ就テハ何レモ學校衛生上充分考慮シ又校具ニ就テモ生徒兒童並ニ園兒ノ衛生上ヨリ顧考シ其ノ新設購入ニ當リテハ常ニ注意ヲ拂ヘリ。衛生室ノ設置並ニ急救藥品等ノ整備ニ就テハ之ガ獎勵並ニ指導ヲ充分ニシ誤ラキテ期スル爲縣ニ於テ設備ノ標準ヲ指示セリ。

教授衛生ニ關スル狀況

生徒兒童及園兒ノ日常衛生ニ關シテハ身体検査ノ結果ニ基キ夫々適當ノ方法ヲ講ズルノ外正常姿勢ノ保持照明換氣ノ調節休憩時間ノ取扱其ノ他家庭ニ於ケル作業及宿題等ニ對シ相當注意セリ。

學校ニ於ケル体育運動ニ關スル狀況

体育運動ニ關シテハ正課時間内教授スベキ体操、教練、遊戲、競技ノ研究ヲムラズ益々合法的ナラシムルト共ニ時間外ニ於テテニス日常体育ヲ獎勵シテ運動衛生ニ留意シ選手制度ノ幣ニ陥ルコトナク体育ノ一般化ヲ圖リ之ガ正常ナル發達ヲ期シ其ノ成績良好ナルヲ見ル。

學校、幼稚園、職員、生徒、兒童、園兒ノ健康狀態ニ關スル狀況

職員、生徒、兒童、園兒ノ健康ニ關シテハ適當ノ体育運動ノ獎勵ニ努ムルノ外毎年必ラズ學校醫ヲシテ身体検査ヲ行ハシメ其ノ結果ニ基キ夫々適當ナル方途ヲ講ズルヲ以テ充分ナル健康ヲ保持セルヲ見ル。

身体虛弱者又ハ精神薄弱者ノ監督養護ニ關スル狀況

身体虛弱者又ハ精神薄弱者ノ監督養護ニ關シテハ各學校ニヨリ林間學校又ハ臨海學校等其ノ實狀ニ應ジテ施設スルモノ次第ニ多ク相當ノ成績ヲ收メツツアリ。

學校醫會ニ關スル狀況

毎年一回ノ總會ヲ開キ學校衛生ニ關スル協議打合會並ニ研究發表特別講演等ヲ行ヒツツアリ。

學校給食ニ關スル狀況

昭和七年文部省ヨリ學校給食臨時施設ニ關スル訓令發セララルヤ本縣ニ於テモ之ニ基キテ實施方法ヲ定ムルト共ニ引續キ國庫交付金ヲ受ケ之ヲ市町村ニ配當交付シテ學校給食ノ實施ヲ督勵シテ其ノ施設宜シキヲ得營養改善上大ナル效果ヲ收メツツアリ。

學校園學林及樹栽

學校園ハ農業教育ノ振興理科教育、勤勞作業ノ教育、審美的情操ノ陶冶等ノ高潮ニ伴ヒ漸次熱心ニ努力シツツアルモ其ノ面積ハ尙充分ナルヲ得ズ且ツ其ノ經營上ノ工夫ニ至リテハ尙研究ノ餘地アリ。營林及樹栽ハ林業思想ノ養成其ノ他諸種ノ記念事業等ノ爲施設セラレ成績概ネ良好ナリ。

教員保姆檢定及免許狀授與

小學校教員及幼稚園保姆ノ檢定ハ無試験檢定ハ隨時之ヲ行ヒ試験檢定ハ定期一回之ヲ行ヒタルガ教員檢定人員ハ無試験檢定正教員五十九名、准教員十二名、試験檢定ハ正教員二百四十八名、准教員二十三名、合計三百四十二名ニシテ保姆ハ無試験檢定三名、試験檢定一名ナリ。小學校教員免許狀ヲ授與シタルハ師範學校卒業者百七名及小學校教員檢定合格ニヨル者正教員百名、准教員十六名、幼稚園保姆免許狀ヲ授與シタルハ檢定合格ニヨルモノ二名ナリ。

學事ニ關スル講習並ニ旅行

縣主催ノ下ニ開催シタル講習會ハ一ハ小學校正教員講習會ニシテ學力補充ノ目的トシ男、女兩師範學校ニ之ヲ開キ、一ハ代用教員講習會ヲ鳥取、米子兩市ニ開キ講習人員二百六十三名尙理科教育講習會ヲ男子師範學校ニ開キ相當ノ效果ヲ收メタリ。又國民精神文化長期短期講習會ヲ開催二百五十三名講習ヲ受ケタリ。其ノ他青年學校教員講習會等ヲ開催シ青年學校教授訓練要目ノ徹底ヲ計リタリ。縣教育會、各都市教育會モ亦適當ナル講師ヲ招キ主トシテ教育ニ關スル講習會ヲ開催シ其ノ出席者多數ニ上リ何レモ相當ノ效果ヲ收メタリ。學事視察ハ市町村經濟緊縮ニヨリ減少シタレ共少額ノ補助ニヨリ縣内又ハ縣外ニ視察旅行スル者相當ニ多ク何レモ視察事情研究事項等ヲ報告シ教育者ノ修養ト學校及學級經營トニ資スル所歟カラザルヲ見ル。本年度視察旅行實人員二千三百九十九名、延日數一萬二千二百二十六日、旅行總額三萬一千五百二十四圓ナリ。

教科用圖書

中等學校ニ於ケル教科用圖書ハ其ノ採用ニ際シ豫メ認可ヲ請ハシムルヲ以テ最初其ノ撰擇ヲ嚴密ニシ適當ト認メタルモノヲ認可スルノ方針ナルガ故ニ穩當ヲ缺クガ如キモノナシ。而シテ其ノ供給ハ小學校ニ於ケル國定教科書供給ト共ニ何レモ圓滑ニ行ハレタリ。

常置体育運動施設

公立又ハ公益法人ノ設立ニ係ル運動場、競技場、水泳場其ノ他常置体育的施設種別其ノ設置廢止及設備ノ狀況

運動競技場ハ公設八、私設一、庭球コート公設一、水泳場公設一、武徳殿一、武道場公設一、スキー場公設七、私設二アリ、面積ハ公設運動場ノ九萬九千四十六坪、私設運動場三千三百三十六坪、庭球コート公設百五十五坪、水泳場公設五百十坪、武徳殿百四十一坪、武道場公設百十二坪、スキー場百三十萬一千坪ヲ有シ漸次相當ノ設備ヲ施シ一般ノ利用ニ供ス。尙夏期ニ於テハ縣下ノ海水浴場ニ簡單ナル設備ヲナシ一般ノ利用ニ供ス。

利用及開設ノ效果

縣体育協會一、郡市体育協會七、中等學校野球聯盟一等ノ団体夫々主催トナリ或ハ縣又ハ郡市單位ニテ小學校、青年團、教育團、中等學校等ノ運動競技ニ汎ク利用セラレ學校体育ヲ中心トシテ漸次一般社會体育熱勃興スルニ至レリ。

圖書館

圖書館ハ縣立一、町村立十一、私立一計十三ナリ。圖書冊數ハ和漢書六萬八千四百二十三、洋書千六百九十二、其ノ他九百十九計七萬一千三十四冊閱覽總人員八萬九千五百四十七人ナリ。設備ハ縣立鳥取圖書館及町立倉吉圖書館ヲ始メ各町村圖書館モ次第ニ完備シツツアリ。然レドモ尙縣下ニハ未設置ノ市町村多數アリ、今後益々町村圖書館ノ設置普及ヲ助成促進シ以テ地方文化ノ開發向上ヲ謀ラント計畫中ナリ。

縣立圖書館ニ於テハ昭和七年度ヨリ貸出文庫トシテ圖書ノ一部貸出ヲナシツツアリ。又最近ニ到リ時局文庫ヲ設ケテ時局ニ關スル認識ニ貢獻シツツアリ。

各町村青年團等又貸出文庫制ニヨリ廻覽シ事務所ヲ小學校或ハ青年會館ニ設ケ圖書ノ選擇ト利用ニ努メ地方文化ノ向上ニ資スル所多シ。縣ニ於テハ毎月文部省推薦圖書其ノ他ノ優良圖書ヲ紹介シ文書指導ノ協議懇談會ヲ開催シ又圖書館令ノ改正ニ件ヒ縣立鳥取圖書館ヲ中央圖書館ニ指定シテ大イニ其ノ機能ヲ發揮セシムル外圖書館令施行細則、町村圖書館施設要項其ノ他諸規程ヲ制定シテ圖書館教育ノ徹底ヲ期シツツアリ

常置教育的觀覽施設

本縣ニ於ケル常置教育的觀覽施設トシテハ植物園一、公園二、徵古館及郷風參考館ノ外町村文庫四アリ。供覽品點數ハ植物六萬一千八百、動物四百九十五、書籍二千八百三十ナリ。尙鳥取高等農業學校施設中特ニ觀覽ノ便ヲ得ルモノアリ。本縣ニ於ケル常置教育的觀覽施設ハ普及ノ餘地相當大ナルモノアルモ各施設トモ漸次其ノ内容ノ充實ヲ圖リテ教育的效果ヲ期スベク努力シツツアリ。

青年團及少年團

男子青年團ハ市ニ二十、町村ニ百七十三、計百九十三、其ノ團員數ハ一萬三千八十六人ニシテ各郡市ニ於テハ各町村青年團ヲ聯合統一シテ郡市青年團ヲ組織シ更ニ郡市青年團ハ互ニ聯合シテ縣青年團ヲ組織セリ。市町村青年團ハ青年教育及訓練ノ實行風紀ノ改善、産業ノ獎勵等ニ努力セリ。特ニ最近指導者ノ養成ト組織ノ整備トニカヲ用ヒ縣青年團及ビ各郡市青年團ニ專任職員ヲ設置シテ其ノ指導ノ充實ヲ計ルト共ニ新事態ニ即應スベキ組織ヲ樹立スル爲、全國ニ魁ケテ、刷新振興ノ策ヲ講ジツツアリ。

縣及郡市青年團ハ毎年一回大會ヲ開キ諸種ノ協議、講演、研究ノ發表ヲ行ヒ幹部講習會ヲ開催シテ中堅人物ノ養成ヲ圖リ又體育會ヲ開キ更ニ全縣下ニ体力検査ヲ實施シテ青年体育ノ振興ト体位ノ向上トヲ圖リ兼テ訓練ニ資スル等青年教育ニ貢獻スル處カカラズ。殊ニ敬神崇祖ノ念ヲ啓培スル爲、明治神宮、靖國神社及縣内各官國幣社ニ獻穀奉仕ヲナシ又北支、中支ニ軍役奉仕團ヲ派遣シ各郡市ニ拓殖講習會ヲ開催シテ大陸國策ニ協力シ興亞勤勞報國家ニ參加スル等東亞新秩序ノ建設ニ邁進ス。其ノ他縣青年團トシテハ團報ノ發行中央諸施設ニ團員ヲ派遣スルノ外近時青年ノ産業熱勃興ニ伴ヒ縣下篤農家ニ就キ産業實務研究ヲ行ヒ

又縣下實業學校ニ委嘱シテ青年産業講習會ヲ開催スル等大ニ青年ノ産業方面進出ニ努メツツアリ。特ニ青年團農業報國運動ヲ全縣下ニ展開シ時局下産業報國運動ニ貢獻セリ。

一市町村ヲ單位トスル青年團本年度收入總額ハ二萬六千四百四十一圓、支出總額ハ二萬五千五百五十七圓ニシテ資産六萬九千四百三十六圓ヲ有セリ。

女子青年團ハ大部分處女會ト稱シ市ニ十九、町村ニ百七十五計百九十四ナリ。其ノ團員數ハ一萬二千四百八十一人ニシテ各郡市ニ於テ各町村處女會ヲ聯合統一シテ郡市處女會ヲ組織セシガ大正十五年五月ニハ更ニ進シテ縣處女會ヲ創立シテ男子青年團ノ施設ト相俟テ女子青年教育ニ貢獻スル處尠カラズ。縣處女會(女子青年團)ノ施設トシテハ處女會幹部講習會竝大會ヲ開催シ講習會ニ於テハ處女會ノ幹部トナルベキ中堅人物ノ養成ヲ圖リ大會ニ於テハ諸種ノ協議研究ヲ行ヒ名士ノ講演ヲ聽キ更ニ女子青年ノ教養ヲ高ムル爲縣下各高等女學校ニ委嘱シテ處女講習會ヲ開催セリ。此ノ外視察旅行、會報發行、中央諸施設ニ會員派遣等ヲナセリ。

各市町村處女會ニ於テハ常ニ業務ノ餘暇ヲ利用シテ諸種ノ講習、講話、見學旅行等ヲ行ヒテ婦德ノ修養ニカムルト共ニ銃後女性トシテ出征兵士ノ歡送迎、慰問文、慰問品ノ發送、傷痍軍人ノ援後、進シテハ其レトノ結婚、戰死者、遺族、家族ノ慰問、援護等ノ諸般ノ仕事ノ中樞トシテ活躍シ、銃後活動ノ先驅ノ使命ヲ果シツツアリ。本年度收入總額ハ一萬三千二百八十二圓、支出總額ハ一萬二千三百六十七圓、資産ハ一萬五千四百四十一圓ヲ有セリ。

少年團ハ縣下ニ於ケル團體數百九十四ナリ。團長ハ小學校長ヲ大部分トシ團員數五萬一千六人其ノ團員ハ尋常三年ヨリ高等二年迄ヲ以テ組織ス。本年度經費ハ二千八百三十圓ナリ。設置ハ明治四十五年ノ創立ニ係ルモノヲ最初トシ近時漸ク其ノ數ヲ増加シ發達見ルベモノアリ。縣ニ於テハ是等少年團ノ聯合統制指導ヲ圖ル爲昭和八年六月鳥取縣少年團ヲ組織、講習會ヲ開催シ指導者ノ養成ニ努メツツアリ。縣少年團ノ施設トシテハ各郡市視閲、實習所ノ開設、合同野營大會、劍道並薙刀ノ指導講習會、興亞少年團研究大會、青少年團ノ系統的施設經營研究會、班長講習會、少年徒歩旅行ノ行路設定等ニシテ、特ニ新事態ニ即應シテ男子青年團、處女會ト統一アル聯關ノ下ニ新ラシキ組織ヲ確立セントシテ其ノ刷新派興ノ方途ヲ講ジ近ク實現ヲ見ントスルニ至レリ。

各學校少年團ノ施設事項ノ主ナルモノハ團體訓練、部落自習組合、學藝會、展覽會、言語改良、素行矯正、早起會、出席獎勵遠足會、排雪、公衆衛生、道標設置、國旗掲揚、貯金獎勵、幼年生通學幫助、時間尊重、水泳、少年夜警、道路修繕等ナリ。而シテ之等ノ施設事業ハ學校、家庭、青年團等ノ指導援助ニヨリ其ノ實行ヲ期シツツアリ。

成人教育

成人教育ニ關スル施設トシテハ大正十五年以來毎年數ヶ所ニ於テ講座ヲ開設シ本年ハ文部省主催ノ公民教育指導者講習會ヲ、更ニ女子師範學校ニ於テ家庭教育指導者講習會ヲ、米子市明道校ニ家庭教育講座ヲ開設シ、高城村青年學校ニ於テ文部省主催ノ中等學校成人教育講座ヲ、米子製鋼所ニ於テ勞働成人學級ヲ開設スル等各種階級ヲ對象トスル成人教育ノ普及徹底ニ力ヲ致セリ。

尙常設成人教育施設獎勵ノ爲氣高郡末恒村、八頭郡國英村成人講座、氣高郡湖山村成人學舍、同郡實木村成人講座及東伯郡北谷村倭義塾、同郡竹田興郷塾同郡以西村成人講座ニ於ケル成人教育施設ニ對シ獎勵金各二十圓ヲ交付シ斯道ノ振興ヲ圖レリ。

社會教育團體

社會教育團體トシテハ國體觀念ヲ明徴ニシ國民精神ノ竹興ヲ期スルト共ニ社會教化事業ノ促進ヲ圖リ公私經濟生活ノ改善ヲ圖リ國力ヲ培養セムガ爲昭和四年九月鳥取縣教化聯合會ヲ設立シ縣下ノ教化團體及教化關係者ノ連絡提携ヲ圖リツツアリ。殊ニ東伯郡山守村、八頭郡社村、日野郡二部村ノ三ヶ村ヲ教化指定村ト定メ、大イニ其ノ教化活動ヲ助成促進シテ縣下各市町村教化運動ノ推進力ヲラシメント企畫シ着々實績ヲ收メツツアリ。尙昭和七年度ヨリ各市町村ニ設置セラレタル社會教育委員ハ時局下ノ市町村自治活動促進上、其ノ活躍ニ期待スル所大ナルモノアルニ鑑ミ愈々之ガ充實強化ヲ計ラントス。

民衆娛樂並生活改善

民衆娛樂ノ善導ハ戰時生活ノ推進ト相俟ツテ重要ナル問題ニシテ、ラヂオノ利用普及ノ獎勵、優良レコードノ推薦、映畫教育ノ普及發展、紙芝居ノ利用等各種ノ方針ヲ講シツツアリ。

生活改善ニ在リテハ社交儀禮改善ヲ中心トシテ縣ヨリ標準ヲ示シ市町村及各種團體ト協力シテ之ガ實現ヲ期シ住宅改善中臺所改善ニ在リテハ婦人會中心トナリ改善講ノ組織ニヨリ漸次改善ノ實ヲ舉ゲツツアリ。殊ニ近時ハ長期戰遂行ノ爲ニ婦人團體ガ中樞トナリテ、結婚、葬祭等ノ簡素生活ノ實踐ニ、モンペノ着用獎勵ニ、奢侈品、贅澤品ノ徹廢ニ廢品ノ回收、貯蓄獎勵等ニ

カメツツアリ。

教 育 品 展 覽 會

本年度縣主催ニヨルモノナシ。

教 育 會

各郡市ニ教育會ヲ設ケ（米子、西伯合同ニシテ現在數七）教員及有志者ヲ以テ組織シ各郡市教育會ヲ聯合シテ鳥取縣教育會ヲ組織シ會員二千八百七十六名ヲ有セリ。

郡市教育會ノ事業ハ講習會、講演會ノ開催、學事ニ關スル研究調査、學事視察員ノ派遣、教員互助施設、運動体育獎勵施設、社會教育施設、表彰等主ナルモノニシテ縣教育會ニ在リテハ此ノ外機關雜誌因伯教育ヲ毎月發刊シ其ノ他教育關係圖書及學用品等ヲ發行シ教育上貢獻スル所多シ尙縣教育會、東伯郡教育會、西伯郡教育會、氣高郡教育會、八頭郡教育會ハ社團法人ニシテ何レモ會ノ基礎鞏固ニシテ健實ナル發達ヲ遂ゲツツアリ。

鳥取縣教育會館ハ昭和十年工費一萬二千圓ヲ以テ鳥取市ニ建設翌十一年四月竣工セリ。

教育ニ關スル法人

文部大臣主管ニ屬スル社團法人ハ鳥取縣教育會、東伯郡教育會、西伯郡教育會、氣高郡教育會、八頭郡教育會、有終會、鳥取縣勸學會、鳥取縣實業教育振興會ニシテ財團法人ハ私立育英會（私立育英中學校）昭和會、坂口獎學館、本多教學財團ノ四アリ何レモ教育ニ關シ相當ノ成績ヲ舉ゲツツアリ。

縣 會 及 市 町 村 會

財政困難ナル折柄ナレドモ縣市町村會ハ教育ノ重要性ヲ自覺シ適當ナル經費ヲ支出シ教育ノ進展ニ努力セリ。

學事關係職員及學事視察

學事ニ關スル職員ハ縣ニアリテハ學務部長タル書記官一名、學務課長タル視學官一名、社會教育課長タル青年教育官一名、視學四名、屬四名、學校教練事務囑託一名、學校衛生技師一名、体育運動主事一名、社會教育主事二名、同主事補四名、其ノ他十九名、市ニアリテハ學務課長一名、市視學一名、書記四名、其ノ他二名ヲ以テ教育事務ヲ處理セリ。視學官ハ毎年一回以上管内中等學校ヲ視察シ縣視學ハ毎年一回以上市町村立並私立學校、幼稚園及市町村役場ヲ視察シ屬ハ年次計畫ノ下ニ時々町村役場、小學校ニ就キ學齡兒童ノ就學出席、學齡簿、學籍簿等ノ狀況ヲ視察シ、學校衛生技師ハ時々學校衛生ノ狀況ヲ視察シ体育運動主事ハ時々學校体育ノ狀況ヲ視察ス。市町村學務委員ハ市町村長ノ諮問ニ應ジテ意見ヲ陳述スルノ外、學齡兒童ノ就學、出席督勵等市町村長ヲ補助シ熱心ニ執務スルモノヲ出スニ至レリ。尙各市町村ニ設置セル社會教育委員ハ天々其ノ市町村ニ於ケル社會教育ノ諸般ニ涉リ活動シツツアリ。

學 事 獎 勵

學事獎勵上縣ニ於テ施設シタル事項ハ普通教育獎勵金ニヨル普通教育功勞者表彰小學校視學委員ノ設置講習會開催等ニシテ又別ニ學校教育會、青年團其ノ他ノ團體ニ補助金又ハ獎勵金ヲ交付シテ其ノ事業施設ノ助成ヲナセルモノ左ノ如シ

私立育英中學校	1,500円
公立米子高等淑徳女學校	150
公立養良實科高等女學校	150
私立鳥取高等家政女學校	500
私立久松幼稚園	100
縣 郡 市 教 育 會	850
鳥 取 縣 勸 學 會	1,000
縣 教 化 聯 合 會	300
縣 婦 人 會	200

縣青年農業研究會	150
縣青年水産研究會	150
縣少年團	200
縣郡市男女青年團	1,730

右ノ外兒童就學獎勵資金ヲ以テ市町村ニ獎勵金ヲ交付シテ貧困兒童就學出席獎勵上ノ施設ヲ講ゼシメ又池田侯爵寄贈ニ係ル學事獎勵金ヲ以テ年度末卒業生ニ對シ縣立學校以下公私立各學校生徒兒童中ノ成績優秀ナルモノ、中等學校六十九名、小學校四百九十三名、青年學校二百二十三名其ノ他九名ニ對シ行賞シ其ノ經費ハ二百九十七圓八錢ヲ支出セリ。財團法人鳥取縣勸學會ハ前年度ト同シク其ノ資金ヲ以テ帝國大學ヲ初メ高等專門學校ノ在學者中前途成績優秀ノ見込確實ニシテ資力乏シキ子女ニ對シ學資ヲ貸與セリ。其ノ當初ヨリノ學資ノ貸與並ニ贈與ノ總人員ハ四百四十九名ニシテ現在貸與人員ハ三十七名ナリ。何レモ成績佳良ナルヲ見ル。東伯郡及日野郡ニ在リテハ郡自治會ニ於テ學資貸與方法ヲ設ケテ人材養成ニ努メツアリ。米子市ニ於ケル財團法人坂口獎學館ハ個人ノ設立ニ係ルモノナルガ高等專門學校入學者ニ學資ヲ貸與シ人材養成ニ努メ、東伯郡ニ於ケル財團法人本多教學財團モ亦個人ノ設立ニ係ルモノニシテ、就學獎勵秀才教育等學事獎勵ニ努メタリ。

將來學事施設上須要ノ件

- 一、小學校ノ整理統一ヲ適當ニシテ教育内容ノ充實ヲ期スル事
- 二、市町村ニ於ケル貧困學齡兒童就學保護ニ關シ一層適當ノ施設ヲ講ゼシムルト共ニ其ノ異常兒童ノ特殊教育ヲ獎勵シ以テ學齡兒童就學出席歩合ノ向上ヲ期スルコト
- 三、尋常小學校卒業者中持ニ女子ノ高等小學校入學ヲ獎メ入學歩合ノ上進ト教育ノ進展トヲ圖ルコト
- 四、小學校及中等學校ニ於ケル内容設備ノ充實ヲ圖ルト共ニ之ガ活用ヲ充分ナラシムルコト
- 五、國民精神ノ作興、勤勞精神ノ涵養ニ努ムルト共ニ教育ノ郷土化實際化ニ力ヲ致ス
- 六、劃一教育ノ弊ニ流レズ兒童生徒ノ個性及環境ヲ調査シテ教育ノ徹底ヲ圖リ職業指導ヲ充分ナラシムルコト
- 七、青年學校ノ專任教員ノ設置ヲ獎勵シ就學出席ノ向上施設經營ノ改善ヲ促シ以テ青年教育ノ進展ヲ期スルコト
- 八、各市町村ノ社會教育系統案ヲ具體的ニ樹立シ特ニ圖書館教育ノ普及ニ努ムルコト
- 九、學校齒科醫、學校看護婦ノ設置ヲ獎勵シ一層學校醫ノ活動ヲ促進シ衛生設備ノ充實ヲ圖リ學校衛生ノ振興ヲ期スルコト
- 十、教員ノ人格修養ト學術ノ研究トヲ獎勵シ資質ノ向上ヲ計ルコト

臨時發生シタル事件

特記スベキ事項ナシ

公學費及公學資産

昭和十四年度公學費支出總額ハ四百十三萬五千七百二十一圓ニシテ内縣費ニ屬スルモノ百二十九萬九千二十六圓、市費ニ屬スルモノ四十八萬一千四百三十二圓、町村費ニ屬スルモノ二百三十五萬五千二百六十三圓トナリ之ヲ前年度ニ比スレバ四萬四千七百三圓ノ減少ヲ示セリ、更ニ之ヲ費目別ニ觀レバ前年度ニ比シ減少ヲ見タルハ新營費ノ二十七萬八千七百九十八圓、修繕費ノ七千九百八十六圓、司書俸給ノ五百六十六圓ニシテ増加シタルハ其他ノ諸費ノ五萬五千五百五圓、教諭助教諭俸給ノ四萬二千二百二十四圓、圖書器械標本費ノ三萬九千四百三十三圓、訓導俸給ノ二萬二千二百七十六圓、雜給ノ一萬九千九百八十五圓、代用教員俸給ノ一萬六千五百二十二圓、消耗品費ノ一萬四千八百六圓等ナリ。

要スルニ本年度ニ於テハ教員ノ配置、教授用器械器具ノ充實ヲ圖リシモ、他面今次事變ノ影響ヲ受ケテ學校建築等抑制セラレシ結果以上ノ如キ減少ヲ見タリ。

公學費歳入總額ハ百六十五萬九千四百三十九圓ニシテ内縣費ニ屬スルモノ六十二萬二千四十七圓、市費ニ屬スルモノ十四萬四千三百六十三圓、町村費ニ屬スルモノ八十九萬三千二十九圓ナリ、之ヲ前年度ニ比スレバ十四萬四千三百八十八圓ノ増トナルガ、其ノ増加ノ主ナルモノハ寄附金ノ九萬二千七百二十四圓、青年學校教育義務制實施ニ伴ヒ青年學校教育費ノ國庫補助金交付等ニ依リ國庫補助六萬四千六百七十一圓ニシテ之ニ反シ減少シタルモノハ縣費補助ノ三萬八千三十八圓、雜收入ノ九千三百八十三圓ナリ。

昭和十四年度末現在ニ於ケル公學資産ノ總額ハ土地坪數八十一萬七千四百三十坪、建物坪數十四萬一千二百九十九坪ニシテ土地建物圖書器械標本器具價格ノ總額ハ一千九百九十九萬四千三百四十五圓ナリ、之ヲ前年度ニ比スレバ土地坪數ニ於テ七千三百三十六坪、土地以下價額合計ニ於テハ六十三萬四千二十五圓ノ増加ヲ示セリ。又學校基本財産ハ現金預金有價證券等四十一萬

八千六十九圓、土地坪數百二十萬八千三百二十四坪此ノ價額十九萬七千二百九十七圓此學校基本財産増殖ノ目的ヲ以テ設ケタル普通住宅十六坪此ノ價額一千圓計六十一萬六千三百六十六圓ニシテ前年度ニ比シ九萬一千六百六十一圓ノ減少ヲ示セリ。

尙積立金ハ六萬四千四百七十四圓其ノ内市町村ニ於テ設ケタル教育學藝ニ關スル資金四萬一千七百四十八圓アリ。

今之ヲ縣、市、町村等ニ區別スレバ次ノ如シ

縣ノ資産總額ハ二百五十七萬五千八百十六圓、基本財産總額ハ一萬一千三百八十九圓ニシテ前年度ニ比シ資産ニ於テ十九萬四千五百五十四圓ノ増加ナリ。

市ノ資産總額ハ百八十二萬六十五圓ニシテ前年度ニ比シ二萬五千三百四十五圓ノ増加ヲ示シ財産總額ハ八萬三千四百五十九圓ニシテ五千九百十九圓ノ増加ヲ示セリ、積立金ハ三千四百九十三圓ナリ。

町村ノ資産總額ハ七百五十九萬八千四百六十四圓、基本財産總額ハ五十二萬一千五百十八圓ニシテ前年度ニ比シ資産ニ於テ四十一萬四千二百六十六圓ノ増加ヲ示シ、基本財産ニ於テ九萬七千八十圓ノ減少ヲ示セリ。此ノ外積立金六萬九百八十一圓アリ。

公學資産ノ狀況ハ以上記述セル通ニシテ學校基本財産及積立金ノ蓄積ニ就テハ市町村財政ノ許ス限リ増殖ヲ圖ラシメ一面之ガ使途又ハ處分ニ關シテハ監督ヲ嚴ニシ管理上遺憾ナキヲ期セリ。

教 育 資 金

教育資金本年度ノ收入ハ返納金四千三百四十二圓六十七錢、資金ヨリ生ズル收入一千三百七十六圓四十八錢、雜收入四圓三十九錢、前年度繰越金三萬一千八百八十九圓八十錢ニシテ支出ハ普通教育獎勵金二千六百九十一圓六十一錢、小學校教員疾病療治料三百五十圓、貸付金九千八百圓ニシテ歳入歳出差引不足金二千五百二十八圓二十七錢ハ翌年度歳入繰上充當セリ。

兒 童 就 學 獎 勵 資 金

兒童就學獎勵資金ニ關スル本年度收入ハ就學獎勵費國庫交付金九千七十七圓、學校給食臨時施設費國庫交付金七千八百五圓、資金ヨリ生ズル收入六百九十圓五十四錢、縣費支出六百圓、前年度繰越金六千三百三十八圓四十錢ニシテ之ガ支出ハ市交付金一千六百九十八圓十錢、町村交付金一萬二千六百圓九十錢、盲聾啞學校交付金四百六十三圓、青年學校研究會交付金百五圓現品支給一千九百二十九圓十四錢、學校給食事務費一千二百九十八圓七十三錢、翌年度繰越金六千二百十六圓七錢ニシテ本資金本年度末現在額ハ一萬七千五百圓、而シテ兒童就學ヲ獎勵スル爲施設シタル狀況ハ縣ニ於テ三十人ニ四百六十三圓ヲ市町村ニ於テ一萬五人ニ、一萬八千九百九十二圓、公益團體ニ於テ百二人ニ四百四十七圓、計一萬五千人ニ一萬八千八百二圓ヲ支給セリ。

尙之ガ内譯ヲ示セバ教科書支給一千九十一人ニ八百九十一圓ヲ、學用品支給四千三百六人ニ四千八百二十一圓、被服支給八百九十六人ニ二千六百八十五圓、食料支給三千四百九十八人ニ九千四百四十五圓、生活費支給六十八人ニ六百十三圓、其ノ他百九十一人ニ三百四十七圓ヲ支給セリ。

市町村立小學校教員加俸資金

市町村立小學校教員加俸資金本年度收入ハ國庫配付金一萬七千五百四十四圓八十六錢、縣費組入一萬九千九百八圓、資金ヨリ生ズル收入八百十九圓三錢、前年度繰越金六千三百三圓五十七錢ナリ、而シテ市町村立小學校教員加俸令ニ依リ給與シタル額ハ年功加俸ニ於テ三萬七千六百八十六圓十三錢、特別加俸ニ於テ九百二十圓八十四錢翌年度繰越金四千五百七十六圓四十九錢ナリ。

男 女 青 年 團 體 事 業 獎 勵 資 金

大正天皇御結婚滿二十五年ノ御祝儀ニ際シ下賜セラレタル金一萬圓ヲ基金トシタル昭昭十三年度末現在額一萬四千五百六十圓ヨリ生ズル收入及縣費支出二千七百五十圓ヲ以テ事業獎勵資金ニ充テ本年度ニ於テハ男女青年團體指導獎勵費トシテ二千五百四十三圓八十七錢ヲ支出セリ。

公 立 學 校 職 員 年 功 加 俸 資 金

公立學校職員年功加俸資金本年度收入ハ前年度繰越金百九十四圓八十八錢國庫補助金一萬一千四百六十八圓二十五錢、縣費支出四萬四百五十七圓ナリ。

而シテ公立學校職員年功加俸令ニ依リ給與シタル額ハ四萬九千七百七十七圓五錢ニシテ外ニ國庫納金七百十四圓十七錢、過年

度支出國庫納金九十三錢、過年度支出年功加俸百四十一圓十錢ヲ支出シ一千五百四十六圓八十八錢ヲ翌年度ニ繰越シタリ。

教育及學藝ニ關スル資金ノ類

縣ニ於テハ舊藩主池田侯爵ヨリ下附セラレタル學校生徒獎勵金ヲ元資トシテ其ノ資金ヨリ生ズル收入ヲ以テ毎年學年末ニ於テ各學校兒童生徒ノ成績優良者ニ賞品ヲ授與スルコトトシ本年度ハ獎勵費トシテ三百四圓ヲ支出セリ。本資金ノ本年度末現在額ハ五千三百八圓ナリ。

市町村ニ於テハ獎學資金ヲ設クルモノ三十二町村、教育基金ヲ設クルモノ二町村名勝舊蹟保存基金ヲ設クル町一、体育獎勵基金ヲ設クルモノ二町村、公設運動場設置資金ヲ設クルモノ町一、圖書館建設基金ヲ設クルモノ市一、村一、幼稚園創設基金ヲ設クルモノ町一、育英資金ヲ設クルモノ二町村アリ。

獎學資金ハ主トシテ成績優秀ニシテ成業ノ見込確實ナル貧困者ニ學資ヲ貸與シ中等學校以上ニ入學セシメ或ハ資金ヨリ生ズル收入ヲ以テ學習ニ必要ナル圖書物品ヲ備ヘザル貧困兒童ニ教科書、練習帳等ヲ給與スル目的トシテ資金ノ本年度末現在額ハ二萬五千四百七十九圓ナリ。

教育基金ハ本年度末現在額二千七百五十四圓、名勝舊蹟保存基金年度末現在額ハ三百圓、体育獎勵基金現在額六百二十八圓、公設運動場設置資金現在額七千六十七圓、圖書館建設基金現在額三千六百六十圓、幼稚園創設基金現在額一千三百七十二圓、育英資金現在額四百八十八圓ナリ。

市町村義務教育費國庫負擔法ニ依ル交付金

昭和十四年度市ニ對シ交付シタル國庫交付金ハ八萬三百十三圓ナリ。右ハ主トシテ市民負擔ノ輕減ニ充當シ尙教員ノ優遇並教育施設ノ内容改善ニ資セリ。

市民ノ教育費負擔狀況ヲ舉ゲレバ次表ノ如クニシテ前年度ニ比シ總額一戸當り五圓五厘減少セリ。

教 員 増 俸		市 教 育 費 負 擔		同上ノ内交付金ヲ除キタル負擔	
人 員	金 額	總 額	同 上 一 戸 當	總 額	同 上 一 戸 當
212 ^人	4,128 ^円	481,432 ^円	24.400 ^円	401,119 ^円	20.329 ^円

又町村ニ對スル本年度國庫交付金ハ七十四萬七千四百八十二圓ナリ。之ガ使途ニ關シテハ町村財政ノ困難ナルニ鑑ミ努メテ住民負擔ノ輕減ヲ圖ルト共ニ教員優遇教育施設ノ充實等ニ資セリ。

今町村ニ於ケル負擔ノ狀況ヲ舉ゲレバ次表ノ如クニシテ前年度ニ比シ總額一戸當二圓十七錢二厘減少ヲ示セリ。

教 員 増 俸		町 村 教 育 費 負 擔		同上ノ内交付金ヲ除キタル負擔	
人 員	金 額	總 額	同 上 一 戸 當	總 額	同 上 一 戸 當
1,156 ^人	22,641 ^円	2,355,263 ^円	33.702 ^円	1,607,781 ^円	23.006 ^円